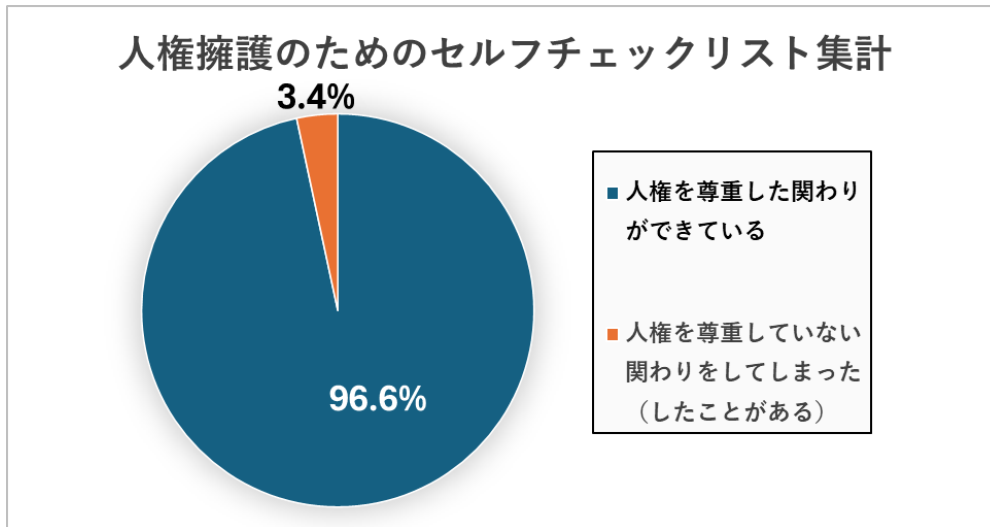


**西保育所** 人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和7年6月実施）  
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト  
～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して96.6%が望ましい対応をしていることが分かりました。3.4%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

子どもが保育者に話しかけた際、「いま忙しいから後にして」と言う。

上記の項目につきましては、職員と子ども、職員と保護者、職員間で話をしている時などに、「このお話が終わるまで待っていてね。」などの声をかけています。また、主体的な保育の実践の中では、「これをやりたい。」など、同時に複数の発信があることも増えているので、子どもたちの気持ちを汲みながら、順番に聞けるよう工夫しています。

集団行動をするための言葉がけをした際、言葉がけを聞かない子どもに「〇〇しないなら〇〇できないからね」と言葉をかける。

上記の項目につきましては、保育の中で子どもに問いかけたり、子どもが選択できるよう心がけています。また、一斉の活動にとらわれず、子どもたちの興味関心から、活動を展開しています。その中で、好きなことを実現できるような環境を整えるとともに、「手を洗ってから、ご飯を食べよう。」「片付けてから〇〇しよう。」など、生活のルールも伝えるようにしています。また、子どもたちに伝える際には、プラスの言葉や前向きな言葉でやりとりができるよう、職員全体で振り返り、意識していこうと話しました。

寝かしつける際に、いつも同じ子どものそばばかりつく。

上記の項目につきましては、午睡時間は寝ることではなく身体を休めることを大事にしていることを再確認しました。また、早く寝る子からそばについたり、早く落ち着けるようにと考えがちですが、寝る、寝ないに関わらず、多くの子が自分の所に早く来て欲しい、ホッとしたい、トントンして欲しいなどの気持ちがあることを忘れず、どの子にも平等に関わっていくことが大事ではないかと話し合いました。